ちくせい CHIKUSEI 魅力散策MAP④

～文化と自然を満喫する 明野ひまわりの里編～

～明野地区歴史探訪コース～

1. 三所神社
   ▼約0.1km
2. 石造五輪塔
   ▼約5.0km
3. 雲井宮郷造神社
   ▼約2.0km
4. 岡田寒泉顕彰碑
   ▼約5.0km
5. 宮山観音堂

ザ・ヒロサワ・シティ

約100haの広大な敷地にゴルフ場やオフロードコース、美術館など多彩な施設を備えるテーマパーク。
住所:筑西市ザ・ヒロサワ・シティ
TEL:0296-45-5601

YS-11 戦後初の国産旅客機。大きさは全長26.3メートル、全幅32メートル。

屋根付きのバーベキュー場
テーブルや椅子もあって快適!焼き台1炉で8人までお楽しみいただけます。(食材は持ち込み)

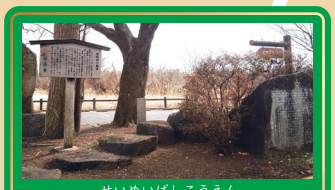
宿泊施設 施設内にはいくつもの宿泊施設があり気軽に滞在できる。
問合せ:0296-22-4189

ロッジ 4人部屋

ドームハウス 3人部屋 4人部屋

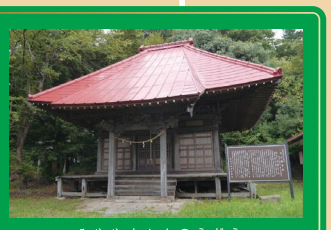
レールパーク
蒸気機関車D51を始めE2系新幹線、寝台特急北斗星など歴史に残る車両を多数展示。

廣澤美術館
新国立競技場を手掛けるなど、世界的に活躍する建築家・隈研吾氏が設計した「石が主役」の美術館。全国から集めた自然石(約6,000トン)1,500個が建物を覆っている。



せいめいばしこうえん
晴明橋公園

水害に困る人々のために、晴明が地形を利用して架けたとされる石橋の伝説にちなんで命名された公園。
住所:筑西市猫島762



みややまかんのうどう
❺宮山観音堂

市指定文化財。本尊は十一面観世音菩薩。桁行三間・梁間三間の寄棟造。棟札によれば、享保8年(1723年)の上棟で、大工棟梁は笠間箱田村の藤田孫平次と知ることができる。また、常陸西国33番札所の1番目であり、ご詠歌に「世を守る誓ひも深き　宮山に　恵みも　御名もかよふ　みくまの」と詠われるほどに親しまれていた。
住所:筑西市宮山504

きゅうおみけじゅうたく
旧尾見家住宅

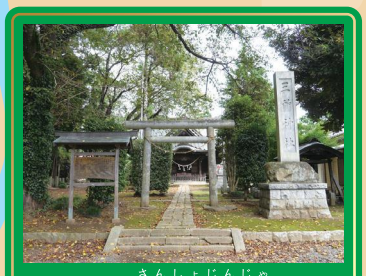
尾見家は、江戸時代に苗字帯刀を許された吉間村(現在の村田)の名主の家柄で、明治25(1892)年発行の「大日本博覧図」にも紹介された地域を代表する名家。明治15(1882)年と昭和8(1933)年には皇族が立ち寄られたことが記録に残されている。国登録有形文化財。
住所:筑西市村田1624

せきぞうごりんとう
❷石造五輪塔

県指定文化財。鎌倉時代中期～末に造られたもので総高216cmと、県内の同時期の五輪塔の中では群を抜いた大きさである。村田荘の初代地頭、村田(小山)朝正公の慰霊のために建立されたものと伝えられている。
住所:筑西市村田1736-1

来福酒造

享保元年(1716年)創業の茨城を代表する酒蔵。地元米のひたち錦など約20種類の酒造好適米と天然の花酵母を使った酒は、世界に認められている。
住所:筑西市村田1626



さんしょじんじゃ
❶三所神社

弘仁2年(811年)に鹿島神社の武甕槌命(たけみかづちのみこと)を勧請して創建されるも延元元年(1336年)兵火のため焼失。その後、17世紀に近隣の香取神社と八幡神社が水災に遭い、3社を合祀したため、三所神社と呼ばれるようになった。その後、江戸から明治にかけて3度の火災にあい、現在の本殿は大正元年(1912年)の頃に再建されたもの。三神を合祀するため正面間口が三間と立派な造りであるほか、参道には長い歴史を感じさせる大欅が立つ。
住所:筑西市村田地内1700番地

えびがしまじょうあと
海老ヶ島城跡

海老ヶ島城は寛正2年(1461年)から応仁元年(1467年)に結城氏によって築かれ、結城成朝の嫡男の秀千代が城主となった。戦国時代には結城氏と小田氏の間で城の争奪戦が繰り広げられ、永禄12年(1569年)佐竹氏の勢力下に収まると、佐竹氏の家臣である宍戸氏が海老ヶ島氏を名乗って城主となった。後の慶長7年(1602年)に佐竹氏が出羽へ移封になり廃城となった。現在周囲には、土塁と堀が点在して残っている。

宮山ふるさとふれあい公園

豊かな自然を思いきり楽しめるアウトドア施設。バーベキュー場をはじめ、キャンプ場、水遊び用のジャブジャブ池、焼物が楽しめる陶芸工房など多彩な施設のほか、どんぐりの林、歴史ロマンにみちた宮山石倉遺跡、明野地区で生まれたという伝説が残る安倍晴明の展示室もある。
TEL:0296-52-3610 (月曜、年末・年始休園)
住所:筑西市宮山504

あけのアグリショップ

宮山ふるさとふれあい公園内にある、花と緑に囲まれた農産物直売所。その日地元で採れた野菜や果物の新鮮さが人気。そば処も併設され、石臼ひきの手打ちそばも味わえる。
TEL:0296-52-6052 営業時間:10:00～18:00
(毎月第4水曜日定休)住所:筑西市宮山504

はこじまゆうすいち
母子島遊水地

昭和61年(1986年)の小貝川水害の後に整備された遊水地。遊水地整備としては全国で初めて、集落の集団移転を行った。池の周囲には桜が植えられ、春には桜、また筑波山をバックに「逆さ筑波」や水面に映る朝日、紅に染まる夕霞など変化に富んだ写真が撮れるビュースポットとして「新選 茨城百景」や「筑波山ベストビューポイント」にも選ばれた。年に2回、筑波山頂から太陽が昇る「ダイヤモンド筑波」を見ることができる。
住所:筑西市飯田地内

あけの元気館

地下1,500mから湧き出す天然温泉を利用した内湯と露天風呂「晴明の湯」やスポーツジム・温水プールなどを楽しむことができる。
TEL:0296-52-7111
住所:筑西市新井新田48-1

たいらのくにか
平国香の墓

東石田には、平国香の本拠地として居館があったとの伝承が残されている。『将門記』には「石田庄」と記され、平将門の乱の舞台となった。国香は、桓武天皇のひ孫高望王の嫡男で、常陸大掾・鎮守府将軍に任ぜられ、常陸平氏の祖となった。承平5(935)年、甥の将門との戦いに敗れ、現在この地には国香の墓と伝えられる石塔が残されている。
住所:筑西市東石田地内

くもいのみやくにのみやつこじんじゃ
❸雲井宮郷造神社

祭神は鹿島神社の武甕槌命(たけみかづちのみこと)。仁和2年(886年)「日本三代実録」に神社名が記されているのを筆頭に、社殿は、ほぼ250年から300年ほどで小田城主などにより繰り返し再建されてきた記録が残る。現在の本殿は18世紀中ごろに再建されたもの。建築様式は三間社流造で、竜の丸彫りや鳳凰の彫刻などの装飾が施されているほか、現社殿の造営に関する文書類が現存している点でも貴重である。また、常陸西国33番札所の2番目であり、ご詠歌に「六つの井に うつる雲井の 月迄も 清き恵みをくみてくらるらし」と詠われている。住所:筑西市倉持928

おかだかんせん　けんしょうひ
❹岡田寒泉 顕彰碑

江戸時代後期(1800年前後)に、現在の茨城県南西部一帯を治めていた名代官。奨励金を与えての開墾推進事業、凶作に備えての食糧備蓄、出生児への養育費の支給などの社会福祉政策に力を注ぎ、人々の生活を安定させた。彼の死後、その功績を称えて顕彰碑が建てられた。
住所:筑西市寺上野地内　寺上野公民館 隣